

国語科学習指導案

平成 23 年 9 月 21 日(水)～9 月 30 日(金)

第 5 学年 男子 11 名 女子 12 名 計 23 名

指導者 長期研修員 高橋 和夫

単元全体の授業仮説

通常学級での国語科の指導において、教材の提示の仕方や学習への取り組みせ方などを工夫するユニバーサルデザインの考えを児童の実態に即して取り入れれば、より分かりやすい学習活動となり、気がかりな姿のある児童を始めとする学級全体の児童が主体的に学習に取り組むようになるであろう。

I 単元名 生き方を見つめて読む

教材名 大造じいさんとがん（教育出版『ひろがる言葉』 5 上 P 82 ～ P 95）

II 単元の考察

1 教材観

高学年の文学の読みでは、「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」が、新学習指導要領の文学的な文章の解釈に関する指導事項としてあげられている。

本教材は、ある沼地を舞台に、生存をかけて戦い続ける狩人の大造じいさんとがんの残雪の生きざまを通して、自然の中で生き、生かされていく人間の姿、そして人間の深い思いやりや心の美しさを描いた物語である。このような物語文を学習する意義は、優れた叙述を味わいながら、登場人物の言葉や行動、心情の変化などに注目して読みを深め、読書の楽しさを感じることにある。とりわけ、本教材が対象とする高学年の段階は、さまざまな文章を読むことによって、多様な考えを取り込み、感性が豊かになってくる時期である。文章の内容を理解できるようにするだけではなく、情景描写などの豊かな表現に着目できるようにしたり、表現が及ぼす効果を感じ取り、文章を味わいながら読めたりできるようにしたい。また、この時期は、登場する人物像について、心情や性格、考え方などをより多面的にとらえることができる時期でもある。人物の心情を、表現や叙述と関係づけて、自分の読みを確かなものとして高めていくことが望まれる。

一方で、学習指導要領に「登場人物の心情は、直接的に表現されている場合もあるが、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もある」とあるように、登場人物の心情の変化は読み手によってとらえ方が異なる場合も多い。そこで、本教材のような文学的文章を深く読もうとしたり、読み取った事柄について友達と意見の交流を図ろうとしたりするためには、共通の「読み取りのものさし」を通して読むことが有効であると考え。学習指導要領が完全実施となった今年度から使用されている国語科の教科書には、「語り手の視点」や「山場」などの用語が登場してきているのが特徴の一つである。本教材は、それらのものさしを有効に活用し、ものさしを通して読み取った内容から主題へと迫っていく学習に適していると考え。

2 児童の実態

(1) 国語学習に関わる実態

本単元の学習に関わるアンケート調査を実施し、以下のような回答を得た。

① 関心・意欲・態度

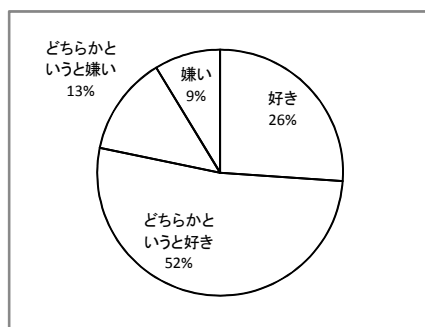


図 1 国語の勉強

実践協力学級の児童 23 名中、国語の勉強が「好き」と答えた児童が 6 名、「どちらかという好き」と答えた 12 名と合わせると、8 割近い児童が国語の学習に対して好きという気持ちを持っていることが分かった。(図 1) また、「どちらかという嫌い」、「嫌い」と答えた 5 名の児童は、漢字や作文など、苦手な分野の学習があるために嫌いという気持ちをもっており、国語で学習するすべての内容が嫌いという訳ではないことが分かった。そこで、それぞれの児童の得意な分野、または苦手意識をもたない分野での学習に対する取組を大いにほめ、意欲を引き出すようにしていきたい。

②読むこと

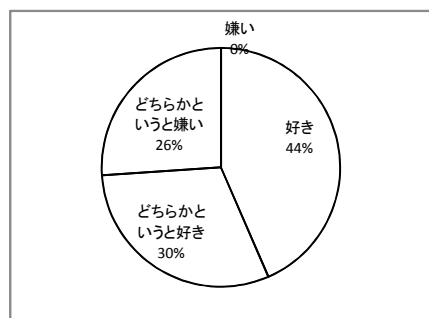


図2 教科書の音読

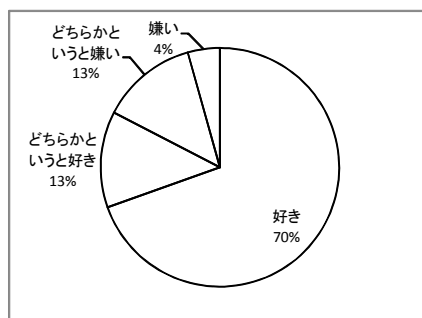


図3 読書（教科書以外）

文章を読むことに対しては、「教科書の音読」が「好き」と答えた児童10名と「どちらかというと好き」と答えた児童6名とを合わせると、およそ4分の3の児童が、また「教科書以外の読書」が「好き」と答えた児童16名と「どちらかというと好き」と答えた児童3名

とを合わせると、5分の4以上の児童が好きという気持ちを持っていることが分かった。

「どちらかというと嫌い」「嫌い」と答えた児童は、「つかえるから」や「長くて飽きるから」などの理由を挙げていた。音読の方法を工夫し、少しでも前向きな姿勢が見られた時には、大いにほめ、励ましていきたい。（図2・図3）

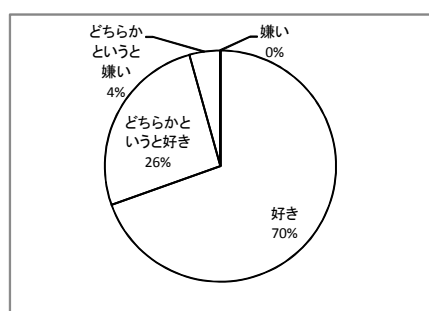


図4 物語文の勉強

また、「物語文の勉強」が「好き」と答えた児童16名と「どちらかというと好き」と答えた児童6名とを合わせると、ほとんどの児童が好きという気持ちを持っていることが分かった。（図4）その理由としては、単に内容が楽しい、おもしろいからという理由が多かったが、中には、「その風景がどういのか」とか「最後に自分で考えて続けるとおもしろいから」などという一歩踏み込んだ理由をあげる児童もいた。「どちらかというと嫌い」と答えた1名の児童は、「長い文だから」という理由を挙げていた。場面ごとに要約する活動を入れるなど、文章の構成のとらえ方を工夫していきたい。

(2) 研究に関わる実態

実践協力学級の児童23名がセルフチェックを行った「授業お助けアンケート」（資料1、別紙参照）の結果を集計した「必要な支援をつかむチェックリスト」（資料2、表1）が下の一覧表である。これをもとにして、授業のどのような場面で、どのような支援を具体的に行っていくのかを、「教室のユニバーサルデザイン」（資料3、別紙参照）や「授業のユニバーサルデザイン」（資料4、同）から選択する。

表1 必要な支援をつかむチェックリスト

No.	授業中に、つぎのことがありますか？ あてはまるところに、○をつけましょう。	ない	たまにある	時々ある	よくある	必要な支援
1	音読の時に、読んでいる場所が分からなくなる。	4名	17名	2名	0名	視覚にかかわる支援
2	音読の時に、読み間違ふ。	3名	15名	4名	1名	
3	音読の時に、目がチカチカする。	17名	5名	0名	1名	
4	新しく習う漢字が、なかなか覚えられない。	12名	7名	2名	2名	
5	黒板のまわりのいろいろな物が見えて気がちる。	22名	1名	0名	0名	
6	先生が言葉だけで質問をすると、意味が分からない。	9名	11名	3名	0名	聴覚にかかわる支援
7	先生が何を話したのかが分からない。	11名	11名	1名	0名	

8	友達が発表した話の意味が分からない。	17名	6名	0名	0名	わる支援
9	「さあ、始めましょう」と言われた時に、何をしていいのかわからない。	13名	7名	3名	0名	
10	いろいろな音が聞こえて気がちる。	18名	4名	1名	0名	
11	つい体を動かしてしまう。	13名	8名	0名	2名	運動感覚にかかわる支援
12	つい後ろや横を向いてしまう。	6名	12名	3名	2名	
13	つい手悪さをしてしまう。	12名	9名	0名	2名	
14	つい出歩いてしまう。	22名	1名	0名	0名	
15	ついおしゃべりをしてしまう。	9名	11名	0名	3名	

3 指導方針及び学習への支援

(1) 単元を通しての指導方針及び学習への支援

- 「教室のユニバーサルデザイン」の観点から、物理的環境を整え、児童への対応に気を配り、児童同士の人間関係をよりよくしていけるよう支援を行うようにする。
- 「授業のユニバーサルデザイン」の観点から、学級全体の児童に対して支援を行いながら、「必要な支援をつかむチェックリスト」（前掲）をもとにして、特に支援を要する児童に対して「視覚にかかわる支援」、「聴覚にかかわる支援」、「運動感覚にかかわる支援」を個別に行うようにする。

【視覚的支援を要する児童への具体的支援】

- ・読むのが難しいと思われる漢字には、ルビをふるようにする。
- ・予め、ルビ付き教材文を用意し、児童が希望する場合は手渡せるようにする。
- ・新出漢字の学習過程を細分化し、「指書き」「なぞり書き」「写し書き」のステップで指導を行う。
「指書き」では、鉛筆を持たずに人差し指で机の上に何度も書くようにする。
- ・音読回数（○印の数）を確認し、家で読んできたり、進んで読もうとしていたりする姿が見られる児童を賞賛する。
- ・本時のめあてを伝える時には板書をし、児童が課題意識をもてるようにする。

【聴覚的支援を要する児童への具体的支援】

- ・話しかける前に名前を呼んだり、指示を出す前に一瞬間をおいたりするなど、教師に注意を向けられるようにする。
- ・説明や指示・発問を行う場合には、短く区切ったり、一文一動詞の言葉を用いたりして、分かりやすい言葉遣いを心がける。

【運動感覚的支援を要する児童への具体的支援】

- ・集中力を高めるために、ノートに考えを書いたり、教科書の文章を読んだりする場面などでは、立ったり、腰掛けたりする動作を意識的に取り入れる。
- ・集中力を高めるために、課題ができたなら教師の所に持ってきたり、板書をしたりする場面を意識的に取り入れる。
- ・集中力を高めたり、考えを深めたりするために、隣の席の友達や班の友達と話し合ったり、席を立てて友達と自由に意見を交流したりする場面を意識的に取り入れる。
- ・学習の始まりを安定させるために、導入の場面では漢字学習を設定し、毎時間同じ学習内容から始める。

(2) 各時間ごとの指導方針及び学習への支援

【第1時】

- ・本文をすらすらと読めるようにするために、音読の回数をできるだけ多く確保する。
- ・単調な繰り返しの音読活動になって、児童が飽きないようにするために、音読の仕方を工夫する。

【第2時】

- ・意欲的に辞書を引くようにするために、付箋紙を用いて学習の跡が見えるようにする。

【第3時】

- ・中心人物を確定することができるように、「読み取りのものさし」となる「視点」「登場回数」「題名」の定義を提示する。

【第4時】

- ・内容を想起したり、集中力を高めたりできるようにするために、一文交代読みをする。
- ・物語の場面をまとめるときには、キーワードを入れることを伝える。

【第5時】

- ・中心人物の心情の変化をとらえやすくするために、「読み取りのものさし」となる「山場」の定義を提示する。

【第6時】

- ・中心人物の心情の変化を整理し、主題をまとめられるようにするために、ワークシートの中で「心情の変化を表すモデル図」を使う。
- ・主題を考える場面では、一般化して表現できるように、教材文から離れ、「人間」「動物」などの言葉を使う。

【第7時】

- ・第4場面の文章を、「大造じいさんの言葉」「大造じいさんの行動」「残雪の様子」「風景」「状況説明」の5種類に分け、色別に線を引く。
- ・それぞれの観点の一文を取り上げ、列ごとに練習する活動を設定し、工夫しているところを賞賛する。

(3) 個別的な支援

前掲の「必要な支援をつかむチェックリスト」から、「視覚にかかわる支援」「聴覚にかかわる支援」「運動感覚にかかわる支援」の3つの観点からなる質問項目のうち、「よくある」と回答した項目があった児童の欄には「◎」を、「時々ある」と回答した項目があった児童の欄には「○」をそれぞれ座席表（図5）に記し、机間指導をする時や指示・発問を出す時の配慮事項とする。

黒 板					
女 11 聴○	男 9	女 7 聴○ 運○	男 5 聴◎ 運◎	女 3 聴○ 聴○ 運○	男 1
男 11 聴◎ 聴○	女 9	男 7	女 5	男 3 聴○ 聴○ 運◎	女 1 聴○
女 12	男 10	女 8 運◎	男 6	女 4 聴○	男 2
	女 10 聴○	男 8 聴◎ 運○	女 6 運◎	男 4 聴◎	女 2

聴…「要視覚的支援」の回答内容（◎…よくある、○…時々ある）
 聴…「要聴覚的支援」の回答内容（ ” ）
 運…「要運動感覚的支援」の回答内容（ ” ）

図5 個別的な支援のための座席表

IV 本時の学習

【第1時】

授業仮説

全文を通読する活動で、変化をつけた繰り返しにより音読の回数を確保するなど、音読の方法を工夫したことは、児童が意欲的に音読に取り組み、物語の内容を把握するために有効であったか。

1 ねらい ○本文をいろいろな方法で音読し、おおよその内容をつかむことができる。

2 準備 【児童】教科書

【教師】教科書、漢字フラッシュカード、ルビ付き教材文、振り返りシート

3 展開

「指導上の留意点及び支援」の欄に、「授業のユニバーサルデザイン」の具体的支援項目を明記した。
第2時以降も同様とする。

(例)授UD視1①…「授業のユニバーサルデザイン」の「視覚的支援」1①を表している。

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援	評 価 項 目
1. 既習漢字の復習と新出漢字を学習をする。 ○既習漢字「税」「許」「故」を確認する。 ○新出漢字「群」「率」「領」を学習する。	5	・フラッシュカードを活用して、既習漢字の復習をする。 授UD視1① ・指書き、なぞり書き、写し書きのステップで指導する。 授UD運1①②③ ・空書きをして定着を確認する。 授UD運1④	
2. 本時の学習のめあてを把握する。	1	・教材文をすらすらと読めるようになることを目指すことを伝え、板書する。	
【めあて】『大造じいさんとがん』の物語をすらすらと音読できるようになろう。			
3. いろいろな読み方で本文を音読する。 ○追い読み ○一文交代読み ○自分読み	30	・教科書の題名の横に○印を10個かき、1回読む度に○印を1個塗ることを伝える。 授UD視3④ ・「追い読み」「一文交代読み」「自分読み」などを、起立したり腰掛けたりする動作を交えながら行う。 授UD聴2③④ 授UD運2⑥ ・希望する児童には、ルビ付き教材文を渡す。 授UD視3⑥	・めあてに向かって、すすんで音読している。【観察】
4. 物語のおおよその内容をつかむ。 ○登場人物を確かめる。 ○いくつかの場面から構成されているかを確かめる。	5	・「登場人物」を定義する。授UD視6⑬ (登場人物＝物語でいう「登場人物」とは、人間であるとは限らない。動物でも、虫でも、物でも何でもよい。物語の中で人間のように考えたり、行動したり、悩んだりするようなものすべてを、「登場人物」と言う) ・行と行との間が一行空いていることに気付くようにする。 ・行と行との間に番号がふられていることにも気付くようにする。	
5. 本時の自己の活動を振り返り、「振り返りシート」に記入する。	3	・音読方法の工夫に関するユニバーサルデザインについての児童の感想を次時の授業に生かすようにする。	
6. 次時の活動を知る。	1	・友達に説明できない語句の意味を辞書で調べる学習をすることを伝える。	

4 資料 「振り返りシート」

【第2時】

授業仮説

友達に説明できない語句の意味を調べる活動で、辞書の調べた頁に語句を記した付箋紙を貼るようにすれば、児童が意欲的に辞書を引き、主体的に学習に取り組もうとするであろう。

1 ねらい ○友達に説明できない語句の意味を調べることができる。

2 準備 【児童】教科書、ノート、国語辞典

【教師】教科書、漢字フラッシュカード、国語辞典、付箋紙、振り返りシート

3 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援	評 価 項 目
1. 既習漢字の復習と新出漢字を学習をする。 ○既習漢字「群」「率」「領」を確認する。 ○新出漢字「断」「寄」「夢」を学習する。	5	・フラッシュカードを活用して、既習漢字の復習をする。 授UD視1① ・指書き、なぞり書き、写し書きのステップで指導する。 授UD運1①②③ ・空書きをして定着を確認する。 授UD運1④ ・本文を音読した回数（○印を塗った数）を聞き、賞賛する。 授UD視3④	
2. 本時の学習のめあてを把握する。	1	・友達に説明できない語句の意味を国語辞典を使って調べることを伝える。	
【めあて】 友達に説明できない言葉の意味を調べよう。			
3. 語句の意味調べをする。 ○見開き2頁ごとに、友達に説明できないと思った文中の言葉をさがす。 ○さがした語句を鉛筆で囲む。 ○丸で囲んだ言葉を発表する。 ○板書を見て、調べる語句をノートに写す。 ○国語辞典を使って語句の意味を調べる。 ○調べた語句の意味をノートに写す。 ○調べた語句を記した付箋紙を該当頁に貼る。	33	・友達に説明できない言葉を鉛筆で丸く囲むように伝える。 授UD視4⑨ ・見開き2頁ごとに調べる言葉を発表できるようにする。 ・「○頁の○行目の○○です」と発表するように促す。 ・「言葉を囲んだ人は起立し、全部言われてしまったら腰掛けなさい」と指示する。 授UD運3⑬ ・友達の発表をしっかりと聞けるようにするために、「友達の発表を聞いて、自分も説明できないと思ったものは囲んでおきなさい」と指示する。 ・児童から出された語句を順次板書していく。 授UD視8⑳ ・囲んだ語句をノートに写し、国語辞典で意味を調べる。 ・付箋紙に調べた語句を書き、国語辞典に貼っていくようにする。 授UD視4⑩	・語句に関心をもって意味を調べている。 【観察・付箋紙・ノート】
4. 本時の自己の活動を振り返り、「振り返りシート」に記入する。	5	・辞書引きの工夫についての児童の感想を次時の授業に生かすようにする。	
5. 次時の活動を知る。	1	・この物語の中心人物は誰かを確かめる学習をすることを伝える。	

【第3時】

授業仮説

中心人物を確定する活動で、読み取りのものさしとなる「視点」など根拠となる考え方を提示して考えさせれば、児童は中心人物が誰であるかを考えることができるであろう。

- 1 ねらい ○根拠となる考え方をういて、中心人物を考えることができる。
- 2 準備 【児童】教科書
【教師】教科書、漢字フラッシュカード、ワークシート、振り返りシート
- 3 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援	評 価 項 目
1. 既習漢字の復習と新出漢字を学習をする。 ○既習漢字「断」「寄」「夢」を確認する。 ○新出漢字「導」「俵」「略」を学習する。	5	・フラッシュカードを活用して、既習漢字の復習をする。 授 UD 視 1 ① ・指書き、なぞり書き、写し書きのステップで指導する。 授 UD 運 1 ①②③ ・空書きをして定着を確認する。 授 UD 運 1 ④ ・本文を音読した回数（○印を塗った数）を聞き、賞賛する。 授 UD 視 3 ④	
2. 本時の学習のめあてを把握する。	2	・「中心人物」を定義する。 授 UD 視 6 ⑦ (中心人物＝物語のほとんどの出てきて、心の動きが書かれている人物のこと。主役とも言う)	
【めあて】この物語の中心人物は誰かを考えよう。			
3. 中心人物を考える。 ○ワークシートに自分の考えと理由を書く。 ○隣の席の友達に説明したり、班の友達と話し合ったりする。 ○他の班の友達とも意見を交流し合う。 ○意見が分かれた場合には、討論形式で意見を交流する。	32	・めあてや言葉の定義、取り組むことがはっきりと分かるようにするために、ワークシートを用いる。 授 UD 視 6 ⑮ ・登場人物を確かめる。 ・中心人物を確定させるための「読み取りのものさし」（「視点」「登場回数」「題名」）を提示し、考える手立てとする。 (視点＝話者がどこを見ているかということ) ・根拠となる考え方をういて、ワークシートに書く。 ・自分の答えが書けたら起立し、隣の席同士で説明し合ったら腰掛ける。 授 UD 運 3 ⑬ ・腰掛けた児童には、理由を書いて持ってくるように伝える。 授 UD 運 3 ⑬ ・席を立て、他の班の友達と意見を交換してもよいことを伝える。 授 UD 運 3 ⑭ ・「大造じいさん」派と「がん」派で意見を交換することを伝える。	・中心人物は誰であるかを考え、自分の考えを書いたり、班の中で発表したりしている。 【観察・ワークシート】
4. 本時の自己の活動を振り返り、「振り返りシート」に記入する。	5	・読み取りのものさしを提示したことについての児童の感想を次時の授業に生かすようにする。	
5. 次時の活動を知る。	1	・3つの場面を読み、大造じいさんのとった作戦名を考える学習をすることを伝える。	

4 資料 ワークシート（資料5「中心人物は誰かを考えよう」）

【第4時】

授業仮説

場面ごとに大造じいさんが残雪を捕らえるためにとった作戦名を考える活動で、隣の席の友達同士で説明し合ったり、班の友達と話し合ったりする活動を取り入れれば、児童はより考えを深めることができるであろう。

- 1 ねらい ○大造じいさんが、残雪をとらえるためにとった方法を、友達と意見交換しながら整理することができる。
- 2 準備 【児童】教科書
【教師】教科書、漢字フラッシュカード、ワークシート、振り返りシート
- 3 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援	評 価 項 目
1. 既習漢字の復習と新出漢字を学習をする。 ○既習漢字「導」「俵」「略」を確認する。 ○新出漢字「独」「詞」「燃」を学習する。	5	・フラッシュカードを活用して、既習漢字の復習をする。 授UD視1① ・指書き、なぞり書き、写し書きのステップで指導する。 授UD運1①②③ ・空書きをして定着を確認する。 授UD運1④ ・本文を音読した回数（○印を塗った数）を聞き、賞賛する。 授UD視3④	
2. 本時の学習のめあてを把握する。	1	・3つの場面で、大造じいさんがとった作戦名を考えることを伝える。	
【めあて】大造じいさんが、残雪をつかまえるために考えた作戦に名前をつけよう。			
3. 作戦名を考える。 ○1の場面の作戦名を考える。 ○2の場面の作戦名を考える。 ○3の場面の作戦名を考える。	33	・めあてや言葉の定義、取り組むことがはっきりと分かるようにするために、ワークシートを用いる。 授UD視6⑮ ・場面ごとに追い読みする。 授UD聴2③ ・場面ごとの作戦名をワークシートに書きこむように指示する。 授UD視6⑮ ・席の隣同士で説明し合う。 授UD運3⑨ ・班ごとに代表が黒板に書く。 授UD運3⑩ ・それぞれキーワードが入っていればよいこととする。 (1の場面「つりばり」、2の場面「たにし」、3の場面「おとり」)	・場面ごとの作戦名を考え、自分の考えを書いたり、班の中で発表したりしている。 【観察・ワークシート・板書】
4. 本時の自己の活動を振り返り、「振り返りシート」に記入する。	5	・自分の考えを書きやすくするためのワークシートや友達との話し合いについての児童の感想を次時に生かすようにする。	
5. 次時の活動を知る。	1	・山場の場面をさがす学習をすることを伝える。	

- 4 資料 ワークシート（資料6「残雪をとらえるための作戦に名前をつけよう」）

【第5時】

授業仮説

読み取りのものさしとなる「山場」の定義を提示し、根拠となる文章をさがしたり、検討し合ったりする活動を行えば、児童は中心人物の心情の変化をとらえることができるであろう。

1 ねらい ○文中から「山場」の根拠となる一文をさがすことができる。

2 準備 【児童】教科書

【教師】教科書、漢字フラッシュカード、ワークシート、振り返りシート

3 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援	評 価 項 目
1. 既習漢字の復習と新出漢字を学習をする。 ○既習漢字「独」「詞」「燃」を確認する。 ○新出漢字「勢」「再」「態」を学習する。	5	- フラッシュカードを活用して、既習漢字の復習をする。 授UD視1① - 指書き、なぞり書き、写し書きのステップで指導する。 授UD運1①②③ - 空書きをして定着を確認する。 授UD運1④ - 本文を音読した回数（○印を塗った数）を聞き、賞賛する。 授UD視3④	
2. 本時の学習のめあてを把握する。	2	「山場」を定義する。 授UD視6⑰	
【めあて】この物語の山場の一文をさがそう。			
		（「山場」＝中心人物の心情や行動などがいちばん大きく変わる場面）	
3. 『大造じいさんとがん』の山場を考える。 ○「山場」の根拠となる一文をさがし、ワークシートに書く。 ○班の友達と意見を交換し合い、班の意見を決める。 ○班ごとに板書し、学級で検討し合う。	32	- めあてや言葉の定義、取り組むことがはっきりと分かるようにするために、ワークシートを用いる。 授UD視6⑮ - 物語の「山場」となる文中の一文をさがすこと伝える。 授UD視6⑰ 「一文」の定義を確認する。 （一文＝句点から句点までのひとまとまりの文） - ワークシートに書けない児童には、個別に支援を行う。	山場となる一文をさがし、自分の考えを書いたり、班の中で発表したりしている。 【観察・ワークシート・板書】
4. 本時の自己の活動を振り返り、「振り返りシート」に記入する。	5	根拠を説明しやすくするためのワークシートや友達との話し合いについての児童の感想を次時に生かすようにする。	
5. 次時の活動を知る。	1	主題を考えて書く学習をすることを伝える。	

4 資料 ワークシート（資料7「この物語の山場の一文をさがそう」）

【第6時】

授業仮説

物語の主題を考える活動で、「はじめ」「きっかけ」「終わり」を記した中心人物の心情の変化を図式化したモデル図を用いるとともに、「主題の書き方」を例示すれば、児童は中心人物の心情の変化をとらえ、題材から離れた観点で主題を書き表すことができるであろう。

1 ねらい ○『大造じいさんとがん』の主題を書くことができる。

2 準備 【児童】教科書

【教師】教科書、漢字フラッシュカード、ワークシート、振り返りシート

3 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援	評 価 項 目
1. 既習漢字の復習と新出漢字を学習をする。 ○既習漢字「勢」「再」「態」を確認する。 ○新出漢字「格」「肥」を学習する。	5	・フラッシュカードを活用して、既習漢字の復習をする。 授UD視1① ・指書き、なぞり書き、写し書きのステップで指導する。 授UD運1①②③ ・空書きをして定着を確認する。 授UD運1④ ・本文を音読した回数（○印を塗った数）を聞き、賞賛する。 授UD視3④	
2. 本時の学習のめあてを把握する。	2	・「主題」を定義する。 (主題＝作者が作品でいちばん伝えたいこと)	
【めあて】『大造じいさんとがん』の物語の主題を考えよう。			
3. 中心人物の心情の変化を確かめる。 ○ワークシートの「はじめ」「きっかけ」「終わり」の欄に入る文を考えて、書き込む。 ○モデル図を参考にしながら自分の言葉で主題を考えて書く。	32	・めあてや言葉の定義、取り組むことがはっきりと分かるようにするために、ワークシートを用いる。 授UD視6⑰ ・心情の変化を表すモデル図を使い、中心人物の心情の変化を確かめられるようにする。 ・書き始めは、「人間は～」「人生とは～」というふうに一般化して書くとよいことを伝える。 ・児童の様子を見ながら、主題の考え方を例示する。（「ワシントンと桜の木」の話を紹介する） ・主題が書けた児童から板書し、他の児童の参考になるようにする。 授UD運3⑩	・中心人物の心情の変化をとらえ、主題を自分の言葉で書き表している。【観察・ワークシート】
4. 本時の自己の活動を振り返り、「振り返りシート」に記入する。	5	・主題を考えやすくするための例示やワークシートについての児童の感想を次時に生かすようにする。	
5. 次時の活動を知る。	1	・グループで役割分担をし、音読発表を行うことを伝える。	

4 資料 ワークシート（資料8『大造じいさんとがん』の主題を考えよう）

【第7時】

授業仮説

音読を発表する活動で、観点ごとに色分けをして読み方を工夫すれば、児童は場面の情景を思い浮かべながら音読することができるであろう。

- 1 ねらい ○叙述に基づいて、登場人物の心情や考え方を自分なりに表現しながら読むことができる。
- 2 準備 【児童】教科書、色鉛筆
【教師】教科書、漢字フラッシュカード、第4場面の文章の拡大図、カラーペン、振り返りシート

3 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援	評 価 項 目
1. 既習漢字の復習と新出漢字を学習をする。 ○既習漢字「格」「肥」を確認する。 ○新出漢字「布」「修」「銭」を学習する。	5	・フラッシュカードを活用して、既習漢字の復習をする。 授UD視1① ・指書き、なぞり書き、写し書きのステップで指導する。 授UD運1①②③ ・空書きをして定着を確認する。 授UD運1④ ・本文を音読した回数（○印を塗った数）を聞き、賞賛する。 授UD視3④	
2. 本時の学習のめあてを把握する。	2		
【めあて】場面の様子を思い浮かべながら音読を発表しよう。			
3. 音読を発表する。 ○第4場面の文章を一文ずつ「大造じいさんの言葉」「大造じいさんの行動」「残雪の様子」「風景」「状況説明」の5種類に色分けし、線を引く。 ○観点ごとに工夫した読み方を考える。 ○列ごとに音読する。 ○学級全体で、一人ずつ順番に一文交代で音読する。	34	・教科書の第4場面を拡大し、黒板に提示する。 授UD視5⑪ ・文章を「大造じいさんの言葉：赤」「大造じいさんの行動：橙」「残雪の様子：青」「風景：緑」「場面の様子：黒」の5種類に分け、色別に線を引くよう伝え、児童と一緒に拡大紙に線を引いていく。 授UD視5⑪ ・色別に読み方を工夫することを伝える。 ・読み方を工夫する観点を知らせる。 授UD視7⑱ ◇大造じいさんの言葉→飛び去っていく残雪に大声で呼びかける感じで読む。 ◇大造じいさんの行動→大造じいさんの動きを思い浮かべながら読む。 ◇残雪の様子→久しぶりの大空に飛び立つ動きを思い浮かべながら読む。 ◇風景→色やにおいを想像しながら読む。 ◇場面の様子→場面を思い浮かべながらも、淡々と読む。 ・それぞれの観点の一文を取り上げ、列ごとに練習する。	・めあてに向かって、工夫して音読している。【観察】
4. 本時の自己の活動を振り返り、「振り返りシート」に記入する。	3	・観点ごとに色分けをしたり、分担したりして発表し合ったことについての児童の感想を把握するようにする。	
5. 次時の活動を知る。	1	・「言葉の種類」の学習を行うことを伝える。	

(別紙) Ⅲ 単元構想

教科名	国 語	学年・単元名	5 学年・「生き方を見つめて読もう」(『大造じいさんとがん』)	指導時期	9 月下旬
単 元 の 目 標			単 元 の 評 価 規 準		
◎ 叙述に基づいて、登場人物の心情や考え方などの変化をらえて読むことができる。 ◎ 文章の内容を的確に把握して読み、自分の考えの根拠を明確にしながら友達と話し合うことができる。			○ 話すこと・聞くこと ・ 登場人物の心情を考えながら、自分の考えを話したり、友達の発表を聞いたりして内容を理解する。 ○ 書くこと ・ 文章をよく読み、文のつながりや情景を考えながら、自分の考えを書くことができる。 ○ 読むこと ・ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むことができる。 ・ 登場人物の気持ちを一体化できるように、効果的に読むことができる。		

学習過程	時	ね ら い	主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (㊦㊦㊦はおもな授業のユニバーサルデザイン)	評価項目・評価方法
つ か む	1 2	○ 本文をいろいろな方法で音読し、おおよその内容をつかむことができる。 ○ 友達に説明できない語句の意味を辞書で調べることができる。	○ いろいろな読み方(追い読み・一文交代読み・自分読みなど)で本文を音読をする。 ○ 友達に説明できないと思った文中の言葉をさがす。 ○ 説明できない言葉を発表し、国語辞典を使って意味を調べる。 ○ 付箋紙に調べた語句を記し、調べたページにを貼る。	㊦ ルビ付き教材文を活用する。 ㊦ 意欲的に音読に取り組めるように、範読・追い読み・一文交代読みなど、変化をつけながら音読をする。 ㊦ 集中力を保てるように、必要に応じて起立したり腰掛けたりして活動をする。 ㊦ 意欲的に語句の意味を調べられるように、辞書の調べたページに付箋を貼る。 ㊦ 難語句は実物または写真や絵を提示し、理解を助ける。	○ めあてに向かって、すすんで音読している。 【観察】 ○ 語句に関心をもって意味を調べている。 【観察・付箋紙・ノート】
深 め る	3	○ 根拠となる考え方をを用いて、中心人物を考えることができる。	○ ワークシートに自分の考えと理由を書き、発表する。 ○ 班の友達と話し合ったり、他の班の友だちとも意見を交流し合ったりする。 ○ 根拠となる考え方をを用いて、ワークシートに書く。	㊦ めあてや言葉の定義、取り組むことがはっきりと分かるようにするために、ワークシートを用いる。 ㊦ 全員起立し、ワークシートに自分の考えを書けた児童から腰掛ける。 ㊦ 腰掛けた児童には、理由を書いて持ってくるように指示をする。 ㊦ 席を立て、他の班の友だちと意見を交換してもよいことを伝える。 ㊦ 中心人物を確定させるための「読み取りのものさし」を提示する。	○ 中心人物は誰であるかを考え、自分の考えを書いたり、班の中で発表したりしている。 【観察・ワークシート・板書】
	4	○ 大造じいさんが、残雪をとらえるためにとった方法を友達と意見交換しながら整理することができる。	○ ワークシートに自分の考えと理由を書き、発表する。 ○ 3つの場面で、大造じいさんがとった作戦を考える。	㊦ めあてや言葉の定義、取り組むことがはっきりと分かるようにするために、ワークシートを用いる。 ㊦ 席の隣同士で説明し合う。 ㊦ 班ごとに代表が黒板に書く。	○ 場面ごとの作戦名を考え、自分の考えを書いたり、班の中で発表したりしている。 【観察・ワークシート・板書】
	5	○ 文中から「山場」の根拠となる一文をさがすことができる。	○ ワークシートに自分の考えと理由を書き、発表する。 ○ 班の友だちと意見を交換し合い、班の意見を決める。 ○ 班ごとに板書し、学級で検討し合う。	㊦ めあてや言葉の定義、取り組むことがはっきりと分かるようにするために、ワークシートを用いる。 ㊦ 読み取りのものさしとなる「山場」を提示する。	○ 山場となる一文をさがし、自分の考えを書いたり、班の中で発表したりしている。 【観察・ワークシート・板書】
追求する	6	○ 『大造じいさんとがん』の主題を書くことができる。	○ ワークシートの「はじめ」「きっかけ」「終わり」の欄に入る文を考えて、書き込む。 ○ ワークシートを参考にしながら自分の言葉で主題を考え、ノートに書く。	㊦ めあてや言葉の定義、取り組むことがはっきりと分かるようにするために、ワークシートを用いる。 ㊦ 大造じいさんの心情の変化をとらえさせるために、心情の変化のモデル図を活用し、視覚的な支援を行う。 ・ 書きはじめは、「人間は～、人生とは～」というふうに一般化して書くとよいこと、文末は、「～することが大切だ」などと価値を表す言葉を使うことを知らせる。	○ 中心人物の心情の変化をとらえ、主題を自分の言葉で書き表している。 【観察・ワークシート・板書】
	7	○ 叙述に基づいて、登場人物の心情や考え方などを自分なりに表現しながら読むことができる。	○ 第4場面の文章を一文ずつ5種類に色分けし、線を引く。 ○ 観点ごとに工夫した読み方を考える。 ○ 一文交代で音読する。	㊦ 文章を「大造じいさんの言葉」「大造じいさんの行動」「残雪の様子」「風景」「場面の様子」の5種類に分け、色別に線を引く。 ・ 色別に読み方を工夫することを伝える。 ・ それぞれの観点の一文を取り上げ、列ごとに練習させ、工夫が見られたところを賞賛する。	○ めあてに向かって、工夫して音読している。 【観察】